

オレンジイノベーション・プロジェクト パートナー団体向けセミナー

取り組みから感じたこと

～**企業**と**当事者**がつながる、そこから見えた景色～

令和7年5月20日

社会福祉法人池上長寿園

大田区若年性認知症支援相談窓口

若年性認知症支援コーディネーター 堀端秀和

今日の内容

①法人の紹介

- ・池上長寿園が運営している若年性認知症事業について

②パートナー団体として実践から感じたこと

- ・実践の流れ
- ・窓口（事務局）の役割
- ・いろいろな参画の仕方

③まとめ

- ・参加者の声とこれから始めようと検討している団体様へ

①法人の紹介

社会福祉法人池上長寿園



社会福祉法人

池上長寿園

- * 設立 1962年（昭和37年）9月
- * 高齢分野
- * 特養老人ホーム、養護・軽費老人ホーム、高齢者在宅サービスセンター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、定期巡回、訪問介護、初任者研修養成事業など約60の事業を展開
- * 若年性認知症支援事業
支援相談窓口、専門デイサービス、家族会、本人会、任意団体（有償活動）、ヤングケアラーサポートなど

公益事業と介護保険事業

大田区若年性認知症支援相談窓口

2020年事業開始

若年性認知症支援コーディネーター2名（専従）
事前予約：WEB、メール、訪問、来所等で相談
年間約2,000件の相談



大田区若年性認知症デイサービスHOPE

2019年事業開始

1日3名（マンツーマン）
週5日営業（月～金）、大田区全域送迎可
認知症対応型通所介護



当事者会と家族会

おおたharmony（当事者会）

2021年活動開始

会員数 15名

毎月第3土曜日 13：30～15：00



家族会ハーモニー

2021年活動開始

会員数 17名

毎月第3土曜日 13：30～15：00



任意団体とケアラーサポート

池上長寿園ota-harmony
(大田区ふれあいパーク活動事業)

2022年事業開始 (任意団体)

区立公園管理を受託 (有償) 会員 10名

毎月第1・3土曜日 10:30~12:00



大田区ヤングケアラーの集い”ひびき”
(東京都地域公益活動助成金事業)

2024年事業開始

概ね月1回の日曜日 会員 6名



②パートナー団体として実践から感じたこと

8つの企業との“ご縁”

＊参加・協力した主な方々＊

若年性認知症当事者 23名

その家族 5名

特別養護老人ホーム

高齢者在宅サービスセンター

認知症対応型高齢者在宅サービスセンター

入居者・利用者・職員



実践の流れ（イメージ）

顔合わせ（WEB）

事務局
企業
窓口担当者

取組みの説明、参
加予定者の紹介、
今後の流れ

説明会 （WEB・対面）



事務局
企業
参加者（当事者）
窓口担当者

取組み、同意書等
の説明

実践取組



企業と参加者で、
商品を使いながら
意見交換を行う

窓口担当者（相談窓口）の業務内容

企業の情報収集

当事者会及び家族会にて案内を行い、希望を募る

参加意思を事務局に連絡

企業、事務局、参加者間の調整

※場合によってはアンケートの取りまとめなどあり

取組み協力に関する請求

全体的なスケジュール管理



企業選びの2つのパターン

①単発

既にできている商品を使い、感想や改善点（使い勝手）などを意見交換を行う

②複数回

例えば、タブレットを使った取組み等は参加者を変えたり、オンラインでの進め方を変えるなど複数のパターンを重ねながら取組みを行い、使い勝手や感想などを意見交換を行う

商品を製作し、効果検証するパターン

既製品の肌触りや着心地など意見交換を行い、どんな商品だったら使ってみたいかを伝えるとオーダーメイドで製作してくれる



単発で効果を検証するパターン

既製品または商品化される前の段階なので、使いながら企業担当者と意見交換することができる



一定期間商品を使えるパターン

自宅で使えるので、身近な商品として感じるだけでなく、こんな機能があったら良いかなど意見も出しやすい



複数回の取り組みから検証するパターン

いくつかのパターンを設けながら、取り組みを行うことで、より使いやすい商品につなげることができる



窓口担当として心掛けたこと

無理強いしない

参加者や企業とのコミュニケーションを大切にする

窓口担当者も一緒に楽しむ（頑張らない）

参加者に合わせたスケジュール管理と企業との交渉

取組んで終わりではなく、次につながるアフターフォロー

家族も巻き込む

リタイアも選択肢の一つとして大切にする

参加者が中心になるよう、調整役に徹する

役割を感じ、充実感、達成感

楽しかった

またやりたい

病気に負けた
くない気持ち
が強くなった

役割を感じて
嬉しい

誰よりも早く商
品を体験できる

窓口担当者の役割は“きっかけづくり”

認知症の進行段階によって参加できる対象企業が変わってくるため、事前の情報収集や企業とのコミュニケーションが大切

企業に対し、対象として考えている当事者のイメージを聞くことで案内する時の参考となる

参加者のストレスを軽減するためにも、企業とのマッチングは重要であり、継続して参加したいか否かにもつながってくる

③まとめ

参加者の声

- ・ いろいろな形で貢献することができることが嬉しいし、楽しい
- ・ 今の活動が誰かのためになるのであれば、やりがいもある
- ・ 認知症になったから、いろいろな経験ができるようになった
- ・ いい商品だなあ 希望が詰まっているようだ
- ・ この商品欲しい 90歳の夢を見たいもの

参加団体（介護事業所）の声

- * あるものに自分たちが合わせるのではなく、自分たちに製品が合わせてくれるという視点で考えたことがなかったと楽しみながら意見を出している様子が伺えた
- * 認知症の方の生活がより安心できるモノづくりをされていることがとても嬉しく感じた
- * できれば認知症の方を直接接している現場の職員の意見を聞いてもらえる機会があると、困りごとや工夫などを知るきっかけになる

最後に

認知症当事者だけでなく、障害を持っても、病気になっても手に取って使える商品が一つでも世にでてきて欲しい（**願い**）

「夢」を創るのではなく、実現できるのが経産省の取組みであり、夢を叶えてもらいたい（**希望**）

そのためには多くの当事者、その家族、そして介護事業所にも参加してもらいたい（**参加する楽しみ**）

ご清聴ありがとうございました

